

教育目標 心豊かに幼稚園生活を楽しみ、自律する子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し <ul style="list-style-type: none"> 様々な経験を通して心豊かに幼稚園生活を楽しむことは、十分に達成された。 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律する子どもの育成については、自己発揮が十分にできない子どももあり、幼稚園での教師との信頼関係をもとに安心して自分の力をよりよく発揮していくことを第一に考え、教育を見直していく必要性がある。また、自己抑制についてはより葛藤やつまずき体験に、丁寧にかかわって子どもの発達に応じた人とかかわりを重視した保育の展開が必要である。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 様々な経験を幼稚園でさせてもらえるのは良いことだが、子どもたちが安心して暮らしていくことが何よりも重要である。世の中の価値観も様々になり、子どもたちの抱える課題も様々になってきた昨今、幼稚園の行事等も見直していく時期に来ているのではないか。 保護者も若い先生方にも、子どもの育ちにとって重要なことをより具体的に知らせていく必要がある。ほっこり子育てひろばなどの取組がより重要になる。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	8月27日（月）	学校運営協議会
最終評価	3月1日（金）	学校運営協議会

（１）幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する

保育の改善・充実

具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> 人とかかわり、主体的に遊ぶための環境構成に努める。 幼児自らが考えたり工夫したりして主体的に遊べる環境構成と教師の援助について考え、実践する。 長期見通しをもった保育実践と年間指導計画の改善
（取組結果を検証する）各種指標 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿の変容 週案の反省評価 事例 保護者アンケート項目①「自分から遊びを見つけ、楽しんで遊んでいる」②「子どもが楽しんで遊べる環境づくりに努力している」教職員アンケート項目「人とかかわり、主体的に遊ぶための環境づくりに努力している」

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿の変容について週案で反省することは進めてきた。しかし、反省評価を次の週案に反映させ、カリキュラムマネジメントしていくことに課題が残った。 保護者からのアンケート①②については95～100%が当てはまると評価していただいた。教員評価「人とかわかり、主体的に遊ぶための環境づくりに努力している」に関しては、課題が残った。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは、担任をはじめ、教職員とかかわり親しみを感じ、安定して過ごすことができる。さらに子どもたちが、自ら考えたり工夫したりして主体的に遊ぶためには、担任が長期的な見通しをもって保育計画を立て実践していくことが必要である。 子どもたちが自分から遊びを見つけたり、主体的にかかわって遊んだりすることができる環境について、教師が計画的に環境構成をすることに努力が必要である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師が子どもと共に遊ぶ中で、幼児理解を深める。 子ども一人一人への願いやねらいを明確にもち、週案を立てる。 年間指導計画を見ながら、週案を立て、その中で子どもの姿から指導計画を再構成していく。 教員同士の連携を深める。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルを活用した週案の見直しと指導計画の再構成 保護者・教職員アンケート
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は教職員の半数以上が異動になり、園の運営や教育実践に精一杯務めているように感じている。子どもたちが安心して園で生活できることが何よりの基本と考え、先生方がゆとりをもって教育活動ができるように学校運営協議会としても協力していきたい。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルにより週案を見直すことには努力したが、子どもの遊びから幼児理解を深めることに課題が残った。 保護者・教職員アンケートにおいては、子どもたちが幼稚園生活を楽しんでいるという意見が多かったが、子どもの安定した幼稚園生活の継続に課題が残った。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが興味をもった遊びが継続していけるよう、行事等と関連付けた生活が送れるよう保育計画を立てることができた。 子どもの姿から幼児理解を深めることに課題が残った。特に個別に支援を必要とする子どもへの支援が行き届いていない。子どもの特性、どのような困りを抱えているかをしっかりみとめる必要がある。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師が子どもと一緒に遊ぶ中で、幼児理解を深める。 個別の指導計画を丁寧に作成し、教員間で共通理解を図る。

	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人一人の課題や困りを明確にし、具体的な支援の方法を考える。
	重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> 教師とのしっかりとした信頼関係がもてず、不安定になり、継続した園生活を送ることに課題が残った。 日々の保育の中で子ども一人一人が充実感を味わい、次の日につながる幼稚園生活を送ることができる保育を保障する。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 子どもにとっての遊びの意義を保護者に伝えていく絶え間ない努力が必要である。

（２）小学校段階への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む **幼小接続の視点**

具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> 年間の交流計画作成 西院校園連盟の保幼小への保育公開と協議会の開催 言葉を豊かにする保育の実践と伝え合いを豊かにする保育実践
（取組結果を検証する）各種指標 <ul style="list-style-type: none"> 交流の事例検討 公開保育への保幼小の教員の参加状況 子どもの姿の変容 保護者アンケート項目「幼稚園・小学校の連携ができている」「先生や友達に自分の気持ちを言葉で伝えている」教職員アンケート項目「言葉の豊かさを支える保育を実践している」

中間評価

	各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> 小学校との交流の年間計画をたて、学年の始めに話し合いを持つことができたが、実際の交流は２学期以降に実施されるため、事例の検討は今後に期待する。 ５月２３日に西院校園連盟の保幼小に５歳児の保育を公開し、小学校の教員と研究協議をすることができた。 子どもの姿からは、言葉と具体的な物や事象とが一致していないなどの姿が見られる。言葉を豊かにする保育の実践に取り組み、言葉集めやクイズを楽しんだ。 保護者アンケートからは、幼小の連携については９５％ができていると評価していただいた。「先生や友達に自分の気持ちを言葉で伝えている」についてはどちらともいえないが２８・５％あり、課題がある。教職員アンケートについては、さらに教員の意識向上が必要。
自己評価	分析（成果と課題） <p>幼稚園の研究保育を地域の保小に公開し、共に学ぶ研修の場を持ったことや、小学校の生活科の研修会に参加できたことは、互いの教育を学ぶ視点でよい機会となった。また、小学校に出かけ、小学校の先生に出会ったり、５歳児が小学校の保健室で体重測定を受ける経験ができたことは１学期の交流として子どもが小学校という場や小学校教員に慣れ親しむという点でよかった。豊</p>

	<p>かな言葉で思いを伝え合う姿をめざし、保育を進めてきたが、子どもたちにとって、自分の使う一つ一つの言葉を体験を通して具体的事象と一致させていくことが大切であると考え、実践に取り組んできた。今後も2学期以降の生活でも大切にしていきたいと考えている。</p> <p>また、先生や友達に自分の思いを伝えたいという子どもの気持ちを今後もしっかり受け止め、伝えたい気持ちを大切にしていきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉を豊かにする保育の実践に向け、歌や絵本、言葉遊びの教材研究を進める。 ・ 言葉を豊かにする保育実践の中で、子どもの姿をみとり、事例をとったり、事例検討をして幼児理解を深めたりする。 ・ 子どもが自分の思いを伝えたいくなるような、温かい学級づくりに努力する。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流の事例検討 ・ 子どもの姿の変容をとらえる ・ 保護者・教職員アンケート
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度保護者が積極的に絵本ボランティアの活動をしている。園内での子どもの姿や課題を伝えていくことで保護者の意識も変わっていくのではないかと。また、地域の絵本ボランティアの読聞かせを保護者にも一緒に聞いてもらうことも非常に良い取り組みの一つと思う。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校との交流において、事前に活動のねらいや大切にしたい姿について話し合う機会を持つことができたが、事例をとったり、検討する機会を持ったりすることは難しかった。 ・ 豊かな言葉で伝え合う喜びを感じる子どもの姿を事例にとり、個々の育ちや変容について考えるよう取り組んだが、事例を検討し、話し合い、幼児理解を深めることができなかった。 ・ 保護者のアンケート結果から、絵本に親しんでいるという項目について評価が下がる結果となった。幼稚園から親子で絵本を読む意味や大切さを啓発していく必要があると考えられる。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉を豊かにする面から子どもの学びに向かう力を育もうと園内研究に取り組んできた。言葉や子どもの伝えようとする心の育ちを意識し保育を進めることが年間を通してできた。 ・ 言葉による伝え合いを意識し、研究保育を行った。小学校の全教員が研究保育を参観し、その後の研究協議に参加した。そこで、幼小接続を意識した話し合いを進めることができた。 ・ 子どもが伝えようとする気持ちを教師がしっかり受け止めるという点で課題が残った。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが自分のありのままを表現したり、安心できる教師や友達に伝えたいと思ったりするような人間関係の基盤を築く。 ・ 小学校と共に学び合う場の継続。
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達との会話を楽しむ姿が見られた。また、自分の思いを教師や友達に受け止めてほしいという思いをもち、自分なりの言葉で伝えようとする姿も見られた。しかし、豊かな言葉に出会う環境が十分であったとは言えない。

	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの伝えたい気持ちをしっかり教師が受け止めること、絵本や子どもと言葉との出会いの環境を設定していくことが課題である。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 西院校園連盟の意識が薄れてきている。小中の学校運営協議会と共に西院校園連盟の活性化を図る必要がある。 小学校との接続・連携は互いの教員が互いの教育を知る大変良い機会となっている。今後も続けてほしい。

(3) 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む **心と体・生活習慣**

具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> 多様な動きが経験できるようリズム遊び等、身体を動かす遊びを意図的に保育計画に位置づけ、幼児の姿に応じて実践していく。 「健康カード」の活用、保護者との連携を密にし、子どもの自立を促す。 	
(取組結果を検証する) 各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿の変容 週案の反省評価 保護者アンケート項目「望ましい生活習慣が身に付いている」「体を動かして遊ぶことが好きである」 	

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> リズム遊びを積極的に取組むよう週案に位置付けてきたが、毎日のリズム遊びに細かなねらいを設定し、取り組むことができなかった。 保護者アンケート項目「望ましい生活習慣が身に付いている」は76%が当てはまる。「体を動かして遊ぶことが好きである」は96.5%が当てはまる。 	
自己評価	分析 (成果と課題) <p>「健康カード」を今年度も活用できている。しかし、健康カードの確認が遅れ、体の様子を担任や保健職員で共通理解するのに時間がかかることが多かった。複数の目で子どもの体調を確認し、保護者も含めて連携をとることが必要である。多様な動きが経験できるようリズム遊びをできるだけ毎日保育に取り入れるよう努力してきた。</p> <p>また、体を動かして遊びたい子どもの思いをしっかり受け止め、十分に力が発揮できるよう環境を考えてきた。しかし、リズム遊びのねらいを教師自身がしっかりと持てていなかったため、経験が偏ったり、子どもの思いに沿っていなかったりすることがあった。2学期は大きな行事として運動会があり、子どもたちの運動経験が広がったり、深まったりすることが期待される。教師自身が子どもにどのような運動経験をしてほしいか、願いとねらいをしっかり持つことが大切である。</p> <p>子どもたちの基本的な生活習慣については、毎日の着替えや弁当を食べる時に個別に指導することを心掛けてきた。このことについては個人差が大きいので、年間を通して取り組んでいきたいと考えている。</p>
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿からリズム遊びのねらいをはっきり持ち、継続して取り組む。 小学校の運動場や公園を活用し、子どもがよりのびのびと体を動かして遊べる環境を工夫

	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任同士，担任と保護者，担任と保健職員などそれぞれが連携をしっかりとし，子どもの体調をしっかりと把握しながら，より健康的な生活習慣が身に付くよう保護者にも啓発する。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの姿の変容 ・ ねらいや環境構成の工夫について週案の反省・評価から見直す ・ 保護者・教職員アンケート
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣や運動経験を広げていくことは，継続することが重要と考える。 ・ 運動会等の行事については，準備等，必要ならば手伝いたい。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体を動かして遊ぶ経験を重ね，体を動かすことが好きと言う子どもが増えた。保護者によるアンケート結果においても，該当項目が良い評価となった。 ・ 運動会に向けての取組や毎日の保育の中でのリズム遊びにおいて，教師がどのような運動，動きを子どもに経験させるかを意識することができた。 ・ 保護者アンケート結果では，家庭で公園で遊ぶこと，散歩など体を動かすことを重視しているかと言う項目において，あまり良い結果が得られなかった。このことは幼稚園からその意義について保護者への啓発が不十分であったと考えられる。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康カードの重要性について十分に保護者啓発ができていなかったため，健康カードを活用した健康管理や規則正しい生活習慣の確立が不十分であった。 ・ 子どもたちが体を動かして遊ぶことが好きと言う気持ちを持つことはできたと感じるが，園外保育等で歩くという基本的な運動において，疲れやすいという子どもの実態があった。また，体幹が弱く，座る，立つの動作に援助が必要な子どももいることが実態である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 座る，立つ，歩くなどの基本的な動作を教師自身が見直し，遊びの中で体幹を鍛えることを意識する。 ・ 保護者と連携し，健康カードや基本的な生活習慣を身につけ，子ども自身が気持ちよく生活することを保障する。 <p>重点目標の達成状況，次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の保育の中で子どもが十分に体を動かし，満足感を味わえるような遊びを取り入れることができた。しかし，子どもの運動量の保障や基本的な運動，動作を身につけるという点において課題が残った。 ・ 個別に支援が必要な子どもも多いため，基本的な生活習慣を身につけることを重点的に取組み，自分のことが自分でできる自信を持てるようにする

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の確立は家庭の影響が大きいですが、園でできること、手洗いうがい、体を動かして遊ぶなど継続して行ってほしい。
---------	---

（４）自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え	
<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> 教師との信頼関係のもと、自己を十分に発揮できる保育の実践。 幼児同士のかかわりを深め、仲間意識や自己有用感が持てる保育の実践。 葛藤体験やつまずきを大事し、互いの思いを伝え合い、認め合う人間関係の構築 	<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿の変容 アンケート項目「気の合う友達がいる」「先生や友達に自分の気持ちを言葉で伝えている」「先生や友達と挨拶している」

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> 教師との信頼関係を築くことには園全体で取り組み、努力してきた。しかし、一部まだ不安定な子どもがいると思われる。 保護者のアンケート結果らは「気の合う友達がいる」は、A 及び B 評価が 73.5%。「先生や友達に自分の気持ちを言葉で伝えている」も A 及び B 評価が 68%と低い。幼児同士のかかわりについては、教師の子ども同士をつなぐ援助が不足していたように感じる。「先生や友達と挨拶している」は A 及び B 評価が 81%であった。 	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <p>多くの子どもが幼稚園や教員に安心感をもち、安定して幼稚園生活を送っている。このことは教師と子どもの信頼関係、教師と保護者の信頼関係が基盤となっていると考えられる。挨拶をする子どもが 80%を超えたことはその表れである。</p> <p>担任を含め、教職員の大半が異動したため、子どもたちの安心・安定を一番に考え、保育を進めてきたことが良かったと思われる。</p> <p>また、その安心感を基盤とし、子どもたちが人とかかわることを楽しいと感じられるよう、子ども同士をつなぐ援助が必要であるが、互いの思いを伝え合う人間関係の構築に関しては、1 学期は、子ども一人一人が自分の思いを大切にできるよう教師が受け止める援助を心がけたが、言葉で気持ちを伝えられるような援助や、子ども同士が思いを伝え合ったり、ぶつかったりする経験をより重ねていくことが必要である。</p> <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> 安心・安定を基盤とし、一人一人が大切にされる保育の実践。 子ども同士がかかわりを楽しみ、広げていけるよう教師が子ども同士をつなぐ援助を心掛ける。 幼児理解を深め、子どもの気持ちをしっかり受け止め、十分に認める。

	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ きょうだいグループのかかわりの中での子どもの気持ちの変容 ・ アンケート項目「気の合う友達がいる」教職員アンケート「子どもの良いところを子どもに分かるように認め励ましている」「一人一人の発達に沿った援助をしている」
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生えといった心の育ちは、周りの大人のかかわり方が大きく影響する。幼稚園で、子どもたちは、教師をモデルとし、教師との関係の中で心が育っていく。先生方にはゆっくりと子どものかかわり、一人一人の姿をしっかりととらえて保育してほしい。

最終評価

	<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ きょうだいグループでのかかわりを年間取り組んできたことから、他学年の友達に親しみを感じたり、預かり保育で一緒に活動することを喜んだり、互いに力を合わせようとしたりする姿も見られた。 ・ 保護者アンケート結果により、「気の合う友達がいる」の項目において評価が上がった。これは、子どもたちが幼稚園の集団生活に慣れ、友達と心を通わすことが楽しいと感じている結果と考えられる。 ・ 「一人一人の発達に沿った援助をしている」の項目において教職員のアンケート結果は低かった。
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びの中で子ども同士がかかわる機会が増えた。その中で子ども同士が互いの思いを知ったり、言葉で伝え合ったりする姿が見られるようになった。 ・ 自分の思いを十分に出すこと、安心して出すことが3学期にはできるようになってきた子どもが多いが、その思いを教師がしっかり受け止め、幼児理解を深めることには課題が残った。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が子どものありのままを受け止めることにより、本当の自分の思いを素直に出せるような信頼関係を気づき、友達にも安心してかかわれるような学級づくりをする。 ・ 子どもたちが自分自身で気持ちを調整する力を育めるよう、個々の課題をしっかりとらえ、ねらいを明確にした指導計画を立てる。 <div>重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが友達関係を広げ、かかわりをもつ中で、互いの思いに気付いたり、それを受け入れたりすることが5歳児後半には見られるようになった。しかし、それまでの発達において様々な葛藤経験が必要である。4歳児の一年間で葛藤経験が十分に行われることや安心できる教師にしっかりと受け止めてもらうことが今後大切であると考えられる。 ・ 子どもたちが自信をもって、自己発揮できるよう、安心、安定を基盤とした幼稚園生活を保障する。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生えといった心の育ちは、周りの大人のかかわり方が大きく影響する。幼稚園で、子どもたちは、教師をモデルとし、教師との関係の中で心が育っていく。先生方にはゆっくりと子どものかかわり、一人一人の姿をしっかりととらえて保育してほしい。